

GAMADAS



photographer: 川村公志 (かわむら・たかし)
1980年高知県土佐町生まれ。ホームページは
<http://www.kawamuratakashi.com/>

GAMADAS (がまだす) とは、熊本弁で「がんばる」という意味。「我慢出す」からきている言葉といわれます。相手を励ますときなどに「がまだせ!」と言います。ライフステーションの代表・山口は熊本出身で、「がまだせよ」「がまだしてがんばるばい」が口癖。そんなことから、このタイトルが生まれました。

「年金相談サイト」を オープンします。

「将来いくらしを心配するの?」

長引く年金不払い問題、迷走する後期高齢者医療制度(長寿医療制度)などが連日マスコミを賑わしているせいか、最近公的年金、公的医療保険に関するご相談が増えています。

最近は少し落ち着きましたが、少し前までは「ねんきん特別便」および「年金からの後期高齢者医療制度(長寿医療制度)の保険料天引き」の話題で持ちきりでした。

自宅に届いた方も多いと思いますが、ねんきん特別便とはいったい何なのか、今でもよく分からないという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そもその始まりは、皆さんが現在お持ちになっている基礎年金番号が導入される以前の年金管理がずさんだったため、一人で複数年金番号を持っていたり加入記録が一元化できておらず、そのことが原因で支給されるべき年金が支払われていなかったこと。そこで、社会保険庁で把握している年金記録を皆さんにお送りして、その記録に間違いがないか、漏れがないかを確認してもらう作業、それがねんきん特別便です。

このような手落ちもあった公的年金に対して不信感をお持ちの方も多数いらっしゃるでしょう。しかし、そうは言っても後の公的年金を当てにせざるを得ない状況の方もいらっしゃると思います。「現在年金を受け取っている」「これから受け取る」という方ばかりではなく若い方や働き盛りの方など現在保険料を納めている世代の方でも、老後にいくもらえるのだろうか、あるいは病气やけが、死亡した場合はどうなるのだろうか、など不安を抱えていらっしゃる方は多いと思います。ライフステーションではこのような年金に関するお悩みをお持ちの方の為に、10月中旬より社会保険労務士による「年金相談サイト」をオープンし、年金に関する様々なお悩みにお答えしてまいります。

それでは GAMADAS Vol.3 お楽しみください。

株式会社ライフステーション 代表取締役 山口 真

「つまずいたときは、自分を責めないこと。雪の下で咲く黄色い花でありたいです」

女優という職業を生かして、現在は『言響(心に響く話し方)』を教える仕事をされている宮北さん。ご自身の体験から、誰もが自分を輝かせるためのヒントを、語っていただきました。



写真：『La Briller』市瀬真理

人に嫌われたくないあまりに、本当の自分の感情を見失ってしまい、ついには自分がどうしたのか分からなくなる。これほど危険なことはないですね。

今の時代、社会で何かをする上では「自分が商品」なんです。

その商品売り込むためにはまず、自分が何か、を分かっているといけません。役者という仕事や、人との関わりを通じて、そんなことを思うようになりました。それが今の仕事につながっているのでしょうか。

人生の節目で感じたこと

私、一度結婚しているんです。結婚後に分かったのですが相手は経済的に問題がある人だったんです。離婚の決心がついたのは、一つにはお金の安心があったからです。27歳

から入っていた保険があって、いざというとき借り入れもできるだろうと思っただけです。いわば「気持ちの保険」ということでしょうか。

女性がこの社会で自立したいと思うなら、「思い」だけでなく、やはりお金も必要なんです。それは女性の皆さんに分かって欲しいですね。

自分を知る、表現する

20代の頃、山深い庭一面に黄色い花が咲くリゾートホテルで働いていたことがあります。ある日起きたら、雪景色。思わず昨日まで花が咲いていた場所の雪を払ってみたら、そこには変わらない姿が。ああ、深い雪の下にもこんな黄色い花がめげずに生きているんだ、自分もこんな花のようでありたいな...と、つくづく思いました。

失敗したとき、自分を責めないこと、これが重要ですね。誰も、生きていくとつまずくことはたくさんあります。その上何度も同じ失敗をしたりします。その時に、もうだめだ、と思っただけです。ああ、またやっちゃった、でも良い経験をしたなあ、

神様はこれで何を教えようとしてくれるだろうか？ だって思えるようになったら、次のステップに繋がります。つまり、自分をどれだけ客観視できるかどうかなんです。

自分を客観的に見ることは、人とのコミュニケーションにも関わってきます。この人には言っても伝わらない、と諦めてしまふんじゃなくて、相手にあわせていかに伝えるか、と考えることは大切です。自分らしく伝えられれば人間関係はとつてもスムーズになります。また、自分を表現することはそのまま、自己を知ることにもなるんですね。

* 人に「元気になった」と言ってもらえるのがいちばん嬉しい、と言う宮北さん。本当に感情表現が豊かで、もしかしたら自分に向きあいながら、前に進んでいる、素敵な女性でした。

現在の仕事へのきっかけ

小さい頃から「人に嫌われたくない」という気持ちが一層強かったですね。芝居を始めてからも、演出家に気に入られたいと思ってしまい、よく怒られました。

役者とはつねに自分と向き合うことを要求される仕事です。自分が何者かを分かった上で表現しなければ、役は自分のものにならない。まず自分を見つめることが大事なんだというところが、役者という経験を通じて分かったことです。

Profile 【宮北侑季】

西田敏行・緒形直人率いる劇団青年座を経てTV・舞台等で活躍(役者名:宮北由季)。20年の俳優実績を生かし、現在「言響(心に響く話し方)スクール・セミナー」を主宰。「実践型体感スクール」として定評がある。特に「言響スクール1DAY 特別集中コース」では全国から受講生が集まり告知後、2時間半で満席になる。現在、もっとも受講するのが難しいスクールのひとつである。詳しくは宮北侑季の『言葉(心に響く話し方)サイト』www.genkyo.net

Present 【小冊子プレゼント】

お客様や社員と信頼関係を築きたい・自分の思いを確実に伝えたいあなたに、読んだその日から簡単に実践できる言響オリジナルテキスト「イメージ通りの自分になる」(定価3,150円)を先着18名様にプレゼントします。お名前、ご住所、携帯番号、を明記の上info@genkyo.netにお申込ください。